

【参加学生3名からの感想文】

NLCS JEJU 2年 チョン・ハウンさん

私の日本に対する第一印象は優しさだった。一週間、長いようであつという間のこの時間の中で、本当に多くの人に様々な優しさをいただいた。

長いフライトの後、九州に到着した私たちが空港で出会ったのは、九州体験学習の日本人引率者の温かい笑顔だった。旅行中、毎朝早い時間にもかかわらず、いつも私たちより早く出てきて、元気な声で迎えてくれたおかげで、一日を楽しく過ごすための活力と勇気をいただいた。引率者と一緒に別府で「地獄温泉ミュージアム」を訪れ、楽しく有意義な時間を過ごし、また水族館「うみたまご」で不思議な海洋動物を見たことが一番印象に残っている。夕食の場では、お互いの文化を共有し、韓国と日本の違いや共通点を発見する楽しみもあった。このような温かい交流のおかげで、単なる旅行ではなく、日本の文化と情緒を深く感じることができる有意義な時間となった。

2泊3日の間、ホームステイ先のホストファミリーが私に見せてくれた優しさは、決して忘れられない思い出となった。生まれて初めてたこ焼きを作ったり、湯布院で箸を作ったり、日本茶について学んだり、大分でなければ、ホームステイでなければ、なかなか体験できない文化を体験することができた。不慣れな言語でコミュニケーションをとることは、時にもどかしく、難しいと感じることもあったが、皆さんが私の不十分な日本語力にもかかわらず、大丈夫だと励ましてくれながら、楽しく話してくれたおかげで、日本語の会話に自信を持つことができた。5日目の夕方にホストファミリーの前でスピーチを発表する機会があったが、第25回高校生日本語スピーチ大会で発表した時は緊張した顔と硬い口調での発表だったが、今回は違った。初対面の時から温かく接してくれたホストファミリーのおかげで、緊張することなくリラックスして話すことができ、より自信を持って話すことができた。ホームステイ先の家族が私の話に耳を傾け、笑顔で応援してくれる姿を見て、自然と気持ちが伝わり、単純に語学力だけでなく、心を通わせることがいかに大きな意味を持つかを改めて実感した。

また、大分東明高校を訪問し、生徒たちからも大きな優しさを経験した。教室に入るたびに生徒たちは明るい笑顔で私たちを迎えてくれ、短い時間だったが、お互いの学校生活や趣味について話し合い、思わぬ共通点を発見することもあった。このような交流を通して、言語や文化を学ぶことの楽しさを改めて感じる事ができた。

今、私にとって日本語は、もはや本や画面の中に存在するものではなくなった。今回の九州体験学習を通して、言語を学ぶことで得られる力と楽しさを学べた。

今や日本語は、私の経験と記憶の中で息づく言語になった。この感想文を書きながら、「一期一会(一生に一度の機会)」という言葉が浮かんだ。今回の旅行は、私にとって一生に一度しかない本当に特別な経験になった。表面的に日本の文化を学んだのではなく、日本の人々の情緒や優しさを感じることができた時間だったと思う。しかし、この経験が私にとって「一期一会」かもしれないが、この一週間で築いた縁をここで終わらせたくはない。ホストファミリーや引率の方々、そして旅先で出会った多くの方々との大切な思い出を大切にだけでなく、今後も連絡を取り合いながら縁を繋げていきたいと思う。今、日本語を学ぶことは単なる学習ではなく、私にとって大切な人々と再会するための架け橋になった。いつか再び日本を訪れ、この方々と再会できる日を楽しみに、さらに日本語を勉強していきたいと思う。

済州高校 2年 ホン・ダヨンさん

第25回高校生日本語スピーチ大会で特別賞を受賞し、九州体験学習に参加する機会を得た。初めて日本に到着したときは、日本に来たことを実感できなかったが、2日目にホームステイ先の家族に会って初めて日本に来たことを実感した。

ホームステイ初日は、ファミリーと一緒にラーメン屋に行き、美味しいラーメンを食べたり、ショッピングセンターで買い物をしたりして過ごした。その日の夕方には翌日の夕食の材料を買いに行き、夜は一緒にお好み焼きを食べて一日を締めくくった。二日目は、ホームステイ先の家族と友達と一緒に湯布院に遊びに行き、そこで美味しいものを食べたり、雑貨屋さんを見たりした後、小さな神社に行ってお参りをし、おみくじを引いてみたら、大吉を引いてとても嬉しかった。そこにおみくじを結んで家に帰った。夕食はホームステイ家族と一緒にすき焼きを食べながら、ホームステイ最後の夜を過ごした。ホームステイをすることで、韓国と日本の文化の違いについてより深く理解することができ、韓国ではできない経験を通じ、有意義な時間を過ごすことができた。ホームステイ先の家族と一緒に2泊3日を過ごし、ショッピングもし、楽しい思い出を作ることができ、本当に嬉しかった。

翌日、ホームステイ先のお母さんが作ってくれたおにぎりを食べ、ホームステイ先の友達と一緒に登校した後、別れを告げAPU大学に行った。その学食で食事をし、学校を見学し、茶道体験をし、夕方にはAPUに在学中の学生と一緒に食事をしながら楽しい時間を過ごした。そして翌日、待ちに待った日本の高校に行った。生徒たちが私たちを見て可愛いと褒めてくれる姿は、初めは恥ずかしかったが、それがとてもうれしく感じた。学校の授業では、折り紙、英語スピーチの発表など様々なアクティビティが用意されていたが、中でも2年生の授業が一番印象に残っている。その授業にはホームステイ先の友達と一緒にだったので、より特別な気分になった。

ホームステイと学校体験が終わった後、引率者と一緒に水族館「うみたまご」と「ハーモニーランド」を見学し、福岡にある「太宰府天満宮」と福岡市内を観光し、残りの日程を過ごした。

短いと言えば短く、長いと言えば長い一週間、たくさんの大切な人たちと出会うことができ、また貴重な思い出を作ることができ、とても幸せで楽しい時間だった。正直なところ、第25回高校生日本語スピーチコンテストの発表をするときは本当に緊張した。しかし、今回の経験を通して自信を持ち、日本語の実力もかなり上達したことを実感した。今回の体験を通して、日本への関心がさらに深まり、これからも日本についてもっと学びたいと思うようになった時間であった。

済州中央女子高校 2年 キム・ナヨンさん

九州体験学習の初日、飛行機に乗って福岡空港に到着するまで、本当に日本に来たという実感が湧かなかった。空港で引率者に会い、日本語を聞いて初めて、ここが本当に日本だと実感した。不慣れな日本語で少し会話を交わした後、遅い時間だったのでホテルに行き、休憩をとった。

次の日は、ホームステイ先の家族と初めて対面する日だった。これから2日間どのような方々と過ごすことになるのか、ドキドキしながら対面した。その後、ホームステイ先の友達と近くの駅に行き、化粧品、服、雑貨など色々なものを一緒に見て回ることで、より親しくなったような気分になった。一緒に買い物をした後、両親と合流し、お好み焼きを食べに行った。一緒にランチを食べながら話をすることで、不十分な日本語でも日本を感じることができたと思う。家に着いて韓国のおみやげを渡し、ケーキとお茶を飲みながらゆっくり話した。韓国語がとても上手なお姉さんに会い、一緒に話したり、リラックスしているうちに、本当に家族のような雰囲気の中で快適に過ごすことができた。

一緒にホームステイする最後の日は湯布院に行き、着物を着て「金鱗湖」や「フローラルビレッジ」など色々なところを見た。大勢の人混みの中での観光で溜まった疲れは、別府の温泉で癒された。一緒に入るのが最初は恥ずかしかったが、一緒に温かいお湯に入ることによって疲れがほぐれ、リラックスできた。家に帰ってからは、大分で有名な唐揚げとおでんを食べた。お腹いっぱいになった後は、ホームステイ最終日という寂しさもあり、夜遅くまで語り合いながら眠りについた。

ホームステイが終わり、再び観光に行く日がやってきた。ホームステイ先の友達を学校の前で見送り、他の友達と合流した。2日間日本語を使ったので、韓国人の友達と話するときにも日本語が先に出てくるのが面白くて、みんなで笑った。別府の地獄温泉と地獄温泉ミュージアムを訪れ、温泉がどのように作られるのかを様々なクイズや体験を通して楽しむことができた。APUで学食を食べて見学をした。日本茶道も体験し、楽しい時間を過ごした。進学の説明を聞くことで、大学進学について改めて考えさせられた。

5日目の朝、いよいよ学校へ行く日がやってきた。日本の学校生活に憧れていたもので、期待とワクワクがした気持ちが大きかったが、学生たちの前で発表する日本語スピーチの心配もあった。学校に到着後、生徒たちと挨拶をし、授業に参加した。中学校でも日本語スピーチを発表し、質問に答える時間を持った。お別れの時、長い時間いられなかったことが残念だった。残念な気持ちに耐え、また会えることを願いながら別れを告げた。

夕方には、ホームステイ先の家族の前で日本語スピーチを発表する交流会があった。学校よりも緊張したが、幸いにも無事に終了し、一緒に夕食を食べた。交流会が終わった後、ホームステイ先の家族と一緒にカラオケに行き、歌を歌った。韓国のカラオケとは少し違うことは知っていたが、実際に体験してみるとまた違った感じがした。手紙を交換するとき、涙が出るほど感動した。本当に私を家族として受け入れてくれたことに感謝し、もっと長くホームステイをしたいと思った。最後は笑顔で一緒に写真を撮り、ホテルの前で抱き合って別れた。

翌日は水族館「うみたまご」できれいな魚やペリカン、セイウチなどを鑑賞し、イルカショーも見た。かわいいサンリオのキャラクターがたくさんあるハーモニーランドを訪れ、キティちゃんと写真を撮ったり、様々なアトラクションを楽しんだ。楽しかったけど、大分での最後の日だったので、より一層寂しく感じた。

午前中に福岡に移動し、博多駅で買い物をした。明日帰るので、今日買うものは全部買わないといけないと思い、色々買い物をした。買い物を終え、韓国人スタッフと一緒に夕食を食べることになり、みんな最後ということもあり、いろいろな話をしながら楽しく過ごした。ホテルに戻り、荷物を整理し、洗濯をしながら、明日には帰らなければならないという寂しさを感じた。

今回の九州体験学習は私にとってとても特別な経験だった。ホストファミリーのおかげでホームステイはとても快適で楽しく過ごせたと、観光に行く際も気の合う友達と一緒に案内してくれた方々のおかげで楽しく過ごすことができた。飛行機の中でみんなからもらった手紙を読み、涙をこらえながら、必ずまた来ると、またこの方たちに会うと誓いながら韓国に戻った。